

# SFC version 2.0

SFCは、次の段階に入りました。



富田 勝

環境情報学部教授

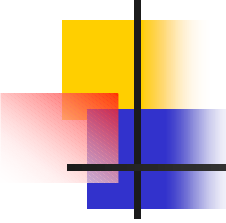




自分で見つけたテーマのために勉強することは楽しい。

---

プロジェクト中心のSFC教育理念



# 総合政策学部・環境情報学部

---

- ひとつの学問分野をマスターすることを目的としていません。
- 教える学問分野を学部名にしたのではありません。



# それではSFCは何を学ぶところ ですか？

---

- 研究プロジェクトを通して、問題を自ら設定し解決する「方法」を学びます。
- 新分野を開拓する「手法」を学びます。
- 特定の学問領域の知識を学ぶための学部ではありません。



# 知識は学ばないのですか？

---

- 知識の習得も大事です。
- ただし学ぶ順序が他学部他大学と違います。



## 他学部（法学部、理工学部など）では...

---

- 最初の2～3年間は授業を通してその基礎知識・技術を習得します。
- 最後にそれらの知識・技術を応用して、卒業研究を行います。
- ⇒ ボトムアップ／基礎積上げ型



## SFCでは...

---

- とにかくまずグループまたは個人で研究プロジェクトを遂行します。
- そこでの問題を解決するためにはどんな知識・技術が必要かが明確になります。
- 授業、スタディグループ、自学自修によって、不足している知識・技術を習得します。
- ⇒ トップダウン／問題発見解決型



# 基礎積上げ型 vs. 問題発見解決型

---

## ■ 基礎積上げ型

- 確立された学問分野向き
- その分野に必要な基礎知識・技術は明確に定めることができる。

## ■ 問題発見解決型

- 新規、或いは境界領域の学問分野向き
- どんな知識が必要か前もって定めることが難しい。





# 「基礎積上げ型」教育の限界

- 従来の大学教育は...
  - ひとつの学問分野をマスターすることを目的として、
  - まず基礎を勉強し最後にそれを応用して卒業研究を行なう「基礎積上げ型」。
- 実社会における問題 / 最先端の問題は...
  - 多くは複数分野にまたがり、
  - 「基礎積上げ型」では限界があります。



# S F Cのプロジェクト中心カリキュラム

---

- 入学後一年間かけて、多彩なプロジェクトの中から最も自分が興味のあるものを見つけます。
- 2年生からプロジェクトに取り組み、
- プロジェクトを遂行するために必要な基礎知識や技術を、授業や自習を通して学びます。
- 何をどのように学べばよいのか、それを考えるのもプロジェクトの一部です。



# プロジェクト中心のカリキュラム。

---

- 問題発見解決型の学習
  - 「問題が与えられ、正解を教わる」のではなく、
  - 「何が問題かを考え、その解決方法を創出する」
- 研究会科目（プロジェクト）を2年生から履修でき、最高36単位。
- 学年による履修制限が緩和。
  - 1年生でも必要があれば専門的な科目が履修可能。
  - 4年生でも異分野の入門的な科目を履修可能。



# 次世代に求められる人材像

---

- これからの社会では、数年前に学んだ知識が役に立たなくなるかもしれません。
- 新たな状況に直面したとき、何が問題かを見つけ、
- それを解決するための方法を考え、
- それに必要な知識と技術を自ら学び、
- 仲間と協力しながらプロジェクトを推進する、
- そんな問題発見解決型人材が求められています。



## どんな人材の育成を目指していますか？

---

- 与えられた課題をそつなくこなす人材より
- 自ら問題を設定し解決できる「プロジェクトリーダー型人材」の育成を目指します。